

NTTテレコン

平内町で通信端末増設

鳥獣害抑止対策を強化

NTTテレコン東北支店は2月4日、青森県平内町における鳥獣害対策の効率化を目的として、同町に檻罾監視用通信端末を新たに7台導入すると発表した。今春、町内の対象エリアに設置する予定。

近年、熊やイノシシなどによる農作物被害や人身被害のリスクが高まっており、確実かつ安全な捕獲活動が求められている。しかし従来の捕獲活動では、罾の毎日の見回りが必須であり、職員の負担増加や危険地域への接近が避けられない。

これに対し、NTTテレコンの檻罾監視システムは、檻罾に熊やイノシシが入ると、扉が閉まる動きで紐が引かれ、目玉クリップがプラグから外れてセンサが反応する。センサが作動すると、LTE-M通信端末「グッとびくん・M2」を通じて遠隔のスマートフォンにアラートメールが届く仕組みとなっている。グッとびくん・M2は、従来モデル比で34%小型化、26%軽量化を実現しており、

檻罾に容易に取り付けることができる。また、マイナス20℃～60℃まで対応するので、屋外に設置することが可能だ。

檻罾の作動状況を遠隔で確認できる機能を備えているため、現地見回りの負担軽減や捕獲後の迅速な対応を実現する。すべての檻罾を巡回する必要がなく、アラートが上がった檻罾だけを見に行けばよいため、効率的な運用を実現することができる。

平内町では2024年6月より檻罾監視システムを先行導入したところ、毎日の現地確認が不要になり、見回り回数は約50%削減された。捕獲状況を事前に把握することで不用意な接近を防ぐので、安全性も向上。また、入手しやすいコンセントプラグと目玉クリ

ップを採用しているため、メンテナンスが容易なうえ、誤作動が少なく、リアルタイムで捕獲状況を確認できるといった効果があったことから、追加導入を決めたという。

檻罾監視システムの概要

